

2025年10月23日
株式会社東急コミュニティー

—管理業務のDXを加速— 管理員業務受託マンションへのタブレット導入及び Volt MXを活用した管理業務日誌アプリの開発

株式会社東急コミュニティー（本社：東京都世田谷区、代表取締役社長：木村昌平、以下「当社」）は、このたびマンション管理員へのタブレット配付及び自社開発アプリを導入し、デジタルツールを活用したマンション管理業務を開始します。管理員業務を受託するマンションにて順次展開のうえ、2026年3月より全国展開をいたします。

高齢化が進む管理員の人材確保と育成は、マンション管理業において大きな課題であり今後もますます深刻化していく見通しです。当社では、管理員業務の効率化及び標準化を目的に管理員業務受託物件に対してタブレット端末を導入し、現場業務のデジタル化を推進します。報告書の作成、業務マニュアルの閲覧などがリアルタイムで可能となり、またこれまでの集合型研修からオンライン研修へ切り替えることにより限られた業務時間内における効率的な教育機会を創出することでサービス品質の向上を図ります。

タブレット導入とあわせて、当社とソフトバンク株式会社（以下「ソフトバンク」）との協業により管理業務の効率化とデジタル化を目的とした「管理業務日誌アプリ」を開発しました。本アプリはソフトバンク株式会社が提供するアプリケーション開発プラットフォーム「Volt MX Development Platform（HCL社）」を活用しソフトバンクの開発支援により現場のニーズに即した操作性とセキュリティを両立した仕様となっています。

管理業務日誌は、管理員が日々の業務内容や対応事項、課題などを記録・共有する重要な業務プロセスとして従来は紙で運用されていましたが記録の属人化や情報共有の遅延、検索性と履歴管理が課題でした。今回開発したアプリにより、これらの課題解決と情報の可視化を大幅に向上させ、タブレットから簡単に日誌を入力・閲覧できるユーザーインターフェースを実現しました。入力されたデータはクラウド上に集約されることで、支店管理者がタイムリーに状況を把握できる仕組みを構築しています。

今後は、蓄積された日誌データを活用した分析や、他業務システムとの連携によるさらなる業務改善を視野に入れ、管理業務のDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進してまいります。

■株式会社東急コミュニティー 会社概要

所在地：東京都世田谷区用賀四丁目10番1号 世田谷ビジネススクエア タワー

代表者：代表取締役社長 木村 昌平（きむらしょうへい）

事業内容：マンションライフサポート事業、ビルマネジメント事業、リフォーム事業、パブリック事業

URL：<https://www.tokyu-com.co.jp/>

管理実績：<https://www.tokyu-com.co.jp/performance/>